

様式10

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲口 甲口保 乙口 第 2 号 乙口保 口修	氏名	森山 聡美
審査委員	主査 藤猪 英樹 副査 湯本 浩通 副査 伊賀 弘起		

題目

Impact of the use of Kampo medicine in patients with esophageal cancer during chemotherapy: a clinical trial for oral hygiene and oral condition

(食道がん化学療法患者における漢方薬使用の効果：口腔衛生および口腔内状態に関する臨床研究)

要旨

がん治療における化学療法は様々な有害事象を引き起こすが、そのうちの口腔粘膜炎は患者の栄養摂取などに加えて、治療の遂行にも影響を及ぼす。近年の基礎研究において口腔上皮細胞や歯周病原細菌における漢方薬の抗菌・抗炎症作用が確認されつつある。本研究では、食道がん化学療法患者に対する有害事象としての口腔粘膜炎、舌苔細菌および歯肉の状態に対する漢方薬処方有用性を明らかにすることを目的とした。

徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科でDFP療法を行った食道がん患者のうち、本研究への同意を得られた24名を無作為に、コントロール群、大黄甘草湯群、半夏瀉心湯群に分けた。漢方摂取群では1日3回漢方シャーベットを摂取させた。口腔粘膜炎Gradeの最高値、Grade3以上の口腔粘膜炎発症の有無、Plaque Index, Gingival Index, Tongue Coating Index および口腔乾燥度について評価した。舌苔中の総細菌数は細菌カウンターで、*P. gingivalis*, *F. nucleatum*, *C. rectus* 菌数はリアルタイムPCRにて測定した。また、全ての群に対して、週1回の専門的口腔ケアを実施した。コントロール群、大黄甘草湯群および半夏瀉心湯群の3群間において、重症口腔粘膜炎発症での有意な差は認められなかった。一方、大黄甘草湯群は、観察期間中にコントロール群と比較して、歯周病関連細菌である*F. nucleatum*, *C. rectus* 数を有意に減少させた。さらに大黄甘草湯群で有意に歯肉の炎症を軽減する効果も示された。これらの臨床試験の結果から、大黄甘草湯が食道がん化学療法患者の歯肉の炎症を軽減し、歯周病関連細菌の減少に有効である可能性が示唆された。

以上より、本研究は歯科医学の発展に寄与する優れた研究内容であり、申請者は当該分野における学識と研究能力を有していると評価し、博士(口腔保健学)の学位授与に値すると判定した。